東京都市大学機械工学科における大連理工大学学生の研修

東京都市大学工学部機械工学科 真保良吉

東京都市大学工学部機械工学科は、平成 27 年 10 月 18 日(日)より 10 月 26 日(火)の日程で、中国の大連理工大学機械工程学院の学生を、さくらサイエンスプランにより受け入れ、研修を行った。学生の内訳は、男子 8 名と女子 2 名の計 10 名で、その他に 2 名の教員(うち 1 名は私費による来日)が引率で来日した。

まず、10月18日(日)に成田空港に到着した大連理工大の来日学生らは、大学から電車で数駅の距離にあるホテルに逗留した。そして翌日19日(月)の朝、大連理工大学生ら12名は、都市大の学生3名に引率され、ホテルより都市大世田谷キャンパスに到着した。この引率は予めそのホテルの最寄り駅を通学路とする卒論学生に依頼しておいたものである。一般教室に集合した大連理工大学生らは、まず都市大機械工学科の教員や指導補助の学生らと互いに自己紹介を行った後、スケジュールや都市大の施設等の説明を受けた。都市大からの説明の後、大連理工大からも大学紹介の申し出があり、予め用意されたパワーポイントにより、大連理工大の説明も行われた。その後、図書館と学生食堂を案内し、ちょうどお昼時となったため、そこで昼食となった。午後は、実際に大連理工大学生が研修する機械工学科の6研究室について、所属学生らにより研究内容等の説明が行われた。その後、10名の大連理工大学生の6研究室への割り当てが行われたが、予てよりテーマ等について大連理工大学生に知らせてあったため、問題なく配属先が決定し、記念撮影の後、いよいよ各研究室に別れ、実習が開始された。

20日(火)から24日(土)まで、各研究室において、実験の実施、データのまとめ、そして発表用の資料作成が行われた。実習時間は概ね、朝の9時30分から夕方5時までとした。ここで各研究室の実習テーマと配属人数は、材料力学研:ハニカムコアサンドイッチパネルの力学的特性に関する研究(2名)、機械力学研:はり振動実験装置の実験モード解析とCAE解析の比較(1名)、流体工学:熱線流速計の製作と2次元噴流の噴流構造に関する研究(2名)、内燃機関工学:4気筒ガソリンエンジンの性能試験(2名)、機械材料研:炭素鋼の強度・硬さと組織の関係(1名)、表面加工研:微粒子ピーニング(FPP)による表面改質特性の変化(1名)および、研削加工液のクロスフローろ過(1名)であった。

25日の日曜日は、日本科学未来館への見学が行われた。9時30分に大学の最寄り駅である尾山台駅のホームに集合し、大井町駅で路線バスに乗り換えて日本科学未来館へと向かった。これは日本の路線バスを来日学生に体験してもらおうという意図もあった。本学の来日学生に本学の引率学生らも含め20名で約1時間半の見学を行った。午後には、いくつ

かのグループに別れ、都内の観光地などを引率学生も含めて散策を行った。

26 日 (月) は、いよいよ最終日ということで、午後 1 時 20 分より研修の成果発表会を行った。各来日学生は日本語の実力はまちまちであったが、全員が無事に成果発表を終えることができ、発表の後、全員に認定証を手渡した。発表会の後、都市大のカフェテリア懇親会を行った。翌朝、早くにホテルを出立しなければならないということで、懇親会の開始時間も午後 5 時からと早くした。挨拶の後、時間を追って来日学生と、都市大の学生および教員らとの話も弾んでゆき、時間を忘れて懇親を深めた。準備しておいた料理は、すぐに残り少なくなったが、来日学生らが日本のお菓子をことのほか気に入っているという情報を得ていたため、それを予め多量に用意しておいた。そのことが功を奏したのか、2時間の間、途切れることなく楽しい時間を過ごすことができた。閉会の挨拶の後、カフェテリアを出た来日学生らは、いつまでも別れを惜しんで手を振っていた。